第 2014-27 号

恵みと真理のニュース

2014 年 7 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 悔い改めて求めると神様に答えられ 結婚して 7 年ぶりにきれいな娘を得ました。

私はイエス様を信じる家庭で生まれ子供の時から親をついて教会に通いイエス様の愛をたっぷり受けながら育ちました。結婚する前まで苦難と迫害を知らないぐらい平安な生活をしながら神様に礼拝を捧げ教会で奉仕する信仰生活をしました。しかし、旦那一人だけ教会に通い他の家族は偶像崇拝を熱心にする家庭に嫁に行き考えなかった様々な苦難と迫害がありました。結婚した後、旦那は約束と違い舅姑の意思に従い礼拝を疎かにし結局主日の礼拝も守らなく世の楽しさに落ちました。私も旦那の家族の全ての行事が主日にあって行事に参加するため主日の礼拝を守らない時が多くなりました。一時期は弱い私の信仰と不従順を自責しながら心が不便でしたが、ある日から悔い改めることさえもしなくなりました。そのような状況で特別な原因がなく妊娠と自然流産が繰り替えました。
結婚後 5 年が立って子供を身ごもるため不妊治療専門病院も探し回りながら肉体にも精神的にも苦労しました。そして初めて主を離れ生きて来た時間と今の私を繰返して神様の前で涙を流しながら悔い改めました。ルカによる福音書に出るどら息子の心になり神様の慈しみと赦しを求めました。（詩篇 32:1,5）“いかに幸いなことでしょう／背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。 わたしは罪をあなたに示し／咎を隠しませんでした。わたしは言いました／「主にわたしの背きを告白しよう」と。そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを／赦してくださいました。”（詩篇 32：1,5）“わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。”(エレミヤ 33：3)という御言葉を信じ神様を呼びながら初めて 40 日間断食祈りをしました。すると神様はまず私の信仰を回復してくださり続いて尊い子供をくださいました。結婚して 7 年ぶりでした。そして神様の恵みで健康できれいな娘を得ました。ハレルヤ！
主が子供を下されば主の子供として恥ずかしくないように育てると約束する心で祈ってから得た娘がいつの間にか大学を卒業して職場に通いながら神様が下さった新しい夢のため勉強し準備しています。教会学校で幼い頃から教会で奉仕し本日まで熱心に主と教会を仕え献身しています。神様はもう二人の子供を与えて下さり二人の子供も私の願い通りに教会学校で熱心に聖歌隊の伴奏者として奉仕し私には大きい喜びを与えています。しかし問題は旦那でした。旦那は信仰を回復せずに相変わらず世に落ちいていました。IMF の時に通っていた会社の不渡りになり職場を喪ってしまいました。そしてすぐ他の職場を探せませんでした。新しい仕事をしようと努力もしましたがそれも思い通りに出来ませんでした。生活が大変になって結局は今まで住んでいた広い家を売って貸しきり家に引越ししました。経済的な苦しさはひどくなりました。まだ小さい子供をみると心が苦しくなりました。朝ことに教会へ行って祈り全ての礼拝に休まずに参加し神様を仰ぎながら助けを求めました。“ 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”(イザヤ書 41：10)という御言葉を信じ祈りました。
感謝する神様の摂理と助けで苦しみを耐え忍び克服する事ができました。子供達も神様に対する信仰と希望を持って健康に育ちました。
大変な時、子供達と共に家庭の礼拝を捧げ神様の助けを信じ祈ると道を広げてくださり考えなかった事まで恵みを増し加えてくださいました。そればかりでなく、あんさん市に住んでいた家の建物の全体が競売で売られ仕方なくシハで引越しするようになりました。引越しして前が見えないくらい暗い状況でしたが神様の助けで小さくて新しい家に住むように予備してくださいました。感謝します。神様からシハ聖殿で聖歌隊員として仕える喜びまで与えられました。また、生活費のため仕事を探しながら主の事も疎かにしないように祈ると持っているお金もないのに比較的に広い家を借りて保育園を運営するように助けてくださいました。神様から恵みの上に恵みを与えられ園児達と村の子供達を集め共に児童区域礼拝もするようなりました。園児達の親を対象で伝道も出来るようになって私のような足りなくて弱い者を神様は用いてくださった事を感謝します。このように保育園を運営しながら経済的にも回復され娘息子達ももっと明るく健康で真実な神様の子供として育つ事が出来ました。
旦那も何年前からが個人タクシーの仕事を始めました。なにより神様に感謝する事は旦那の信仰が回復され執事の職分も受けたことです。最近私は旦那の信仰は早く成長して旦那も楽しむ心で教会へ来て聖徒を仕え伝道することに熱心に奉仕するように祈っています。今まで時によって恵みを与えて下さり私の祈りもすぐ答えてくださり栄光を捧げます。
主から任された事であれば何でも感謝し従順することを念を押します。真の良い私達の主に感謝と賛美を捧げます。“すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ。主の慈しみとまことはとこしえに／わたしたちを超えて力強い。”ハレルヤ。

［信仰コラム］ これが私の本物です

″…貧しい者だが、多くの人を富裕にして何もない者だが、すべてのものを持っている者なり″(ゴフ 6:8~10)

本文にはキリスト人が不信者たちにどのように認識されて判断になったのはその実際の姿を見て比較になっています。それで キリスト人の実情について明らかになったことです。
第一は、栄光と不名誉さによるとしました。世の中は悪魔(悪)になってからキリストに属した人をきらいです。キリスト人は不信者たちに一生懸命に伝道するために、他の宗教を信じる人たちにイエス・キリストだけが救援をくれてために悪口を聞いて嫌われます。しかし、キリスト人は世の中が与えられずに奪って行けない栄光の約束していることになったから少しも恥ずかしがらず、むしろ喜びます。
第二は、悪の名前による美しい名前になります。その話しは聖書ではキリスト人を義人、聖徒、キリスト人、神の民、神様の子供と呼びます。みんな尊貴て美しい名前です。世間の人がいくら誹謗して悪に言ってもそのために神聖な名前が汚されていません。
第三は、欺く者だが、真としました。不信者たちはキリスト人がイエス・キリストの童貞の女子の誕生と、十字架での贖罪の死と墓での復活、昇天と再臨を語っているからに欺く者と考えます。福音の真理を荒唐無稽に思っています。しかし、これは人たちが作った巧みな話ではなく聖書に啓示された真理です。
第四は、無名した者のようだが、有名したものとしました。真実のキリスト人は神様が喜ばれるのではない名声を追求しません。本当に有名な人は神様に認定を受ける人です。キリスト人は世の中で無名であっても、神様の国では有名な者です。
五番目は、死ぬもの思うが、我々が生きているとしました。初、教会から、今まで数多くのキリスト人ちが信仰を守るために殉教を受けました。ところで、このような真実を知らなければなりません。キリスト人の主観的体験には自分に死がないという事実です。イエス・キリストを信じなければ新しい生命を得て天国で永遠な喪に服しながら生きようになります。死ぬものだが、事実は生きているのです。
第六は、懲戒を受ける者と同じだが殺されずに、キリスト教会の歴史がこれを証明してくれます。そして聖徒が一人ひとりの経験もこれを証明してくれます。いろいろ問題と困難を受けた時も、むしろ神様の能力を深く体験して信仰がもっと堅固になっています。
7 番目は, 心配する者同じだがいつも喜んでといっていました。キリスト人は、福音を信じず、滅亡の道に行く家族や隣人を考えながら、信頼が弱い者を見るときもしかして試験に入るようになるのではないかと思って心配することになります。反面、不信者たちが持つことができない喜びの理由を持っています。
八番目は、貧しい者だが、多くの人を富饒にするとしました。
キリスト人は持った財物や学識の関係なくいつも他人を富饒に思いながら生きていくことができます。他の人の人生を富饒させることにあって福音を伝えて信じるようにすることよりもっと良いことはないからです。
また、心霊に空虚を感じながら渇望する人たちに聖書に啓示された信頼、願望、愛のことばでその心霊を満たし、神様がくれた神霊の恩師を受けて他の人たちに有益を与えます。
第九は、何もない者だが、すべてのものを持っている者だしました。真のキリスト人は世の中の名誉、地位、権勢、物質を所有しても、実は何もない者のように常に神様を眺めて支えながらお待ちいたします。また、神様が時に沿って支援する恩恵を施して日用のことをいただいてすべてのものを持っている者や、他ならないです。キリスト人は世の中の名誉、地位、権勢、物質がないとしても、それ以上のものを持った者です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私が何の言葉を言おうか

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

ある宗教人になろうと思う時その宗教の創始者や教理に対する信仰が必ずなければならないことではないです．しかしキリスト教はそうではないです．聖書に啓示された創造主の神様と救世主を信じる信仰がなくては クリスチャンになれないです．聖書は信仰の対象と内容を啓示しているまた信仰で暮す方法に対して教えています．そして信仰で行った模範的な人々と事件が記録されています．ヘブル人への手紙 11 章はこれを集中的に扱っています．そうするからヘブル人への手紙 11 章を “信仰章”と呼びます．
私たちは今日として六週間を “聖徒のすばらしいは信仰から行うのにある．” このことを主題にしてヘブル人への手紙 11 章を詳考しています．今日は 32 節から最後の節までよく見ます．

ヘブル人への手紙 11 章の本文の 32 節から 35 節までこんなに記録されています．**“このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。”**と言いました．
神様の動き手で活躍した人々は彼が住んだ時代と活動舞台そして役目はそれぞれ違っても一つ共通点があります．信仰で行動したというのです．ギデオン，サムソン,エフタ、ダビデは皆が戦争の英雄たちなのに彼らの獲得した勝利は刀と矛にないで信仰によったのです．ギデオンは元々軍人ではなくて農業師でした．彼が打作の庭先で打作しているのに神様が彼を指名して呼んで士師に立てました．ミディアン人とアマルレック人と東方人々がすべて集まってイスルへ谷の間に陣を張りました．神様の霊がギデオンに臨んだらギデオンが軍事を募集しました．3 万 2 千名が自願して集まって来たが神様がギデオンに集まった者を二つの段階で選別するようにしました．すると選別された者の数がわずか 300 人に過ぎなかったです．300 人で数えきれないほど多い少ない打って退けるということは人間の考えでは不可能な事でした.しかしギデオンは神様の指示どおり 300 人の勇士たちを導いて敵陣を向けて夜間に不意打ち作戦を開きました．敵方は争って見ることもできなくて逃げるのに汲汲していたしギデオンは完全な勝利を得ました．
信仰の偉人たちはこのように信仰で国々を勝ったのみならず民たちに公義を行ったりしました．また神様を信じてから約束を受けるようになってその約束が成り立つことを見るようになりました．“獅子たちの口を阻んだりした”と言いました．ダニエルはペルシア帝国の総理でした．ダリオ王が傍白１２０人を立てて全国を統治するようにして彼らの上に総理三人を置いたがダニエルがその中で一番寵愛を受ける総理でした．他の総理たちと傍白たちがダニエルをおとし入れようと思ったがダニエルが完璧に引き受けた仕事を遂行するから告訴する物を探すことができなかったです．そうする中である妙策を捜し出しました．彼らは王にさらには王をおだてながら懇請するのを誰でも三十日の内にどんな神さまや人に切に求める者は獅子の穴に投げるようにする調書と禁止令を下げなさいと言いました．ダリオ王はその調書と禁止令に王のはんこを押して公布しました．一方ダニエルはその調書に王の印が押したことが分かってからも以前にした通り自分の家へ行って一日に三度ずつひざまずいて祈りました．ダニエルの対敵者たちがこれを王に報告しました．
王は大臣たちがダニエルを殺そうと思う提案をしたことが分かるようになったが時はもう遅れました．ダニエルが獅子の穴に投げられるとダリオ王は宮廷に帰って全然食べなくて寝ることも成すことができなかったです．明くる日，王が朝早く起きて急に獅子の穴に行きました．王が懸念の声で叫ぶのを “生きていらっしゃった神様のしもべダニエルよ，あなたがいつも仕える生きている神様があなたを獅子たちから救われたのか?” しました．あの時穴の中で力強い音が鳴らして出ました．“王よ，私の神様が天使を送って獅子たちの口を阻んだので獅子たちが私を害することができなかったです．” 王は甚だしく嬉しくてダニエルを引き上げなさいと言い付けました．どんな理由でこんな奇跡的なことが起こったと言うのに対してダニエル書に記録されるのを “彼が自分の神様を信じたからだ”と言いました．
“火の勢いを消ししたりした”と言うのはシャデラク、メシャクおよびアベデネゴの場合を言うのです．イスラエル子孫であるシャデラク、メシャクおよびアベデネゴはネブカデネザル王が立てた金の像の除幕式でお辞儀をしなかったから結縛されて燃える溶炉に投げられました．ところで彼らの結縛だけ燃えてしまって三人の人は燃えられなかったです．この驚くべきな光景を見たネブカデネザル王が溶炉の身近に近付いて彼らを呼び出して見たら髪の毛一つ灸らなかったです．その姿を見た王が神様をほめたたえました．シャデラク、メシャクおよびアベデネゴの信仰は溶炉の熱気よりもっと熱くて強かったです．
“刃を避けたりした”と言うのは暴悪な権力の刀で命を拾った人々の場合を言うのです．ダビデは彼を殺そうとするサウル王の刃を避けました．予言者エリヤは王后 イセベルの刃を避けました．エリサはアラム王の刃を避けました．このような事は彼らの信仰になったのです．“弱い中で強くなったりした”と言うのは祈祷で神様のあわれみを着て癒されたヒスギャ王を含めた多くの事例を言います．この皆が信仰で行った結果です．“女だちは自分の死亡者を復活で受けたりした”と言うのはサレブダのやもめの息子とスネムに暮す女人の子供が死んでからまた生き返えた事件を言います．
本文のヘブル人への手紙，11 章 35 節後半から 38 節までに次のように記録されています．**“女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。”**．信仰はあらゆる苦難を充分に手におえるようにします．信仰の人々は苦難にあっても世の中に心を奪われなかったし世の中と妥協しなかったです．本文の 39 節と 40 節にまた説明しました．**“さて、これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった。 神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっているので、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない。”** 今まで列挙した信仰の偉人たちはその信仰によって神様の認定を受けました．しかし彼らは神様の約束が実現する前，救世主がいらっしゃる前に死にました．聖書に予言されて約束されたとおりイエスキリストがいらっしゃってあがないの死を死んで復活昇天なさるので新約時代の私たちが救いを得るようになりました．
今日の本文の言葉を詳らかによく見れば信仰で生きて行く人が経験するようになる非常に対照的な状況が記録されています．その中に一つは，神様の能力が現われて私たちを害しようと思う勢力を退けるとか屈服させて奇跡的に問題が解決されて状況を逆転させる場合です．他の一つは，抑圧と損失と苦痛，欠乏と困難にあって甚だしくは命を失ったりするが苦難を嬉しく忍耐して最後まで神様を敬い畏れながら信仰を失わない場合です．信仰で暮すことはこのような二つの場合を皆含んでいます．

聖書には信じる者に従う奇蹟に関する記録が数えきれなく出ます．神様が今日にも信仰で行う聖徒に奇跡的な病気の癒やすことと問題解決と勝利そして経営する事に成功を得るようにします．信仰の口を広く開いて求めてください．また願わない苦難が持続しても気落ちしない信仰の持ち者になってください．私たちが確かに信じて分かることはこれです．神様は全知全能なさいます．無所不在なさいます．善良です．真実です．変わりがないです．聖徒たちが経験するすべての事がついに有益で善良な結果になるようにします．だから聖徒の皆さんは神様がいらっしゃるという事実だけでも楽しい生を生きて行くことができる信仰の持ち者になってください．そしてイエスキリストにあって救いをもらって神様の子になったことだけでもいくら嬉しく生きて行くことができる信仰の持ち者になってください．聖徒のすばらしいはどんな状況でも信仰で行うのにあります．聖徒の皆さんはヘブル人への手紙 11 章に登場する人々のようにすばらしい生きて行くように願いします．